

研究結果一覧における支給者からの特徴的な回答等について

1 第一編関係(基本情報等に関する回答)

◎ 27人のうち11人から筋電電動義手が重たいとの回答あり。

- (1) 11人のうち7人は能動義手の装着年数が1年以下の者であった。(別表参照)
 → 能動義手の装着経験年数が無い又は短い者の方が電動義手を重いと感じる傾向があるのではないか。
- (2) 11人のうち7人については、医療機関から「装着訓練において医療機関において苦勞した点があった」との回答があった。

※ 苦勞したとの回答の主なもの

- ・ ソケットの適合・修正に時間を要した。(2件)
 - ・ 断端発汗時に、ソケット肩挿入に時間を要した。
 - ・ 吸着ソケットで初期は長時間つけているとソケットがずれて操作しづらくなった。
 - ・ 装飾義手で(右上肢を)あまり使っていなかったため、筋力低下。筋力強化が必要であった。
 - ・ 肘屈曲したまま手部の開閉を行うと誤動作が起こる。
 - ・ 発汗に対する対応に工夫が必要だった。
- 電動義手の装着訓練を開始した者に対しては、個人用のソケットを支給すべきではないか。
- 能動義手の訓練終了者を電動義手の支給対象者とすべきではないか。(電動義手の装着訓練は別途実施)

2 第5編関係(装着訓練等に関する回答)

◎ 訓練の成果として、職場復帰するにあたって自信となったかとの質問に対し、訓練後も「変わらない」との回答(事例1)

- ・ 本件対象者は断端痛のため能動式義手が使用できなかった者である。
- ・ 電動義手支給後も就労していない。
- ・ 医療機関からは「職業に対する意欲が高く、真面目で温厚」、「疲れてくると右手に力を入れた時に、義手が開く」(誤作動)、「継続使用の可能性有り」等の回答あり。

◎ 訓練プログラムについて、日常生活に即していたかとの質問に対し、「どちらともいえない」との回答(事例6)

- ・ 本件対象者は「装飾用5年、能動ハンド5年」、「会社では能動ハンドを使用している」もの。
- ・ 支給後職場では電動義手を「キーボードの入力作業や両手で資料を運ぶ作業」に活用しているものの、日常生活においては活用しておらず、「装飾用で十分」と回答。

◎ 筋電電動義手は職場復帰に役立つと思うかとの質問に対して「どちらともいえない」との回答(事例25)

・本件対象者は「装飾用8年、能動フック8年」、「大工手伝い」として就労、職場においては「重いものを持つことができそうにない、故障してしまいそう」との理由から電動義手を使用していない。

・日常生活においては、「週2～3日」、「外出時」に電動義手を使用していると回答。

・医療機関からは、電動義手を希望する理由として「外見が良い」、継続使用の可能性「有り(但しその理由については記載なし)」、装飾用や能動式と比してどれだけ有用かとの問いに対して「家庭生活、外出に」との回答あり。

→ 電動義手支給後に就労することが見込まれることを支給要件とすべきではないか。

→ 電動義手を真に必要とする者に対して支給することを明確化すべきではないか。

◎ 意見・要望について

○ 装着訓練の仕方、リハの仕方を知っている人を配置してほしい。(事例4)

・ 本件対象者は「装飾用数週間、能動式ハンド数週間」、「入院、8週間、週5回、平均訓練時間4時間、主な訓練場所医療機関」である。

・ 医療機関からの回答において、訓練等に関して他の事例と異なるような記述はない。

→ 特に本件対象者の訓練において、問題があったとは認められないので、一般論として電動義手の装着訓練に対する意見と思われる。

○ 県内に(又は近くに)訓練ができる医療機関があればよい。(事例10、11、19)

○ 訓練期間の8週間は適当かむしろ短い(事例12、20、21)

・ 「装飾用17年」、「装飾用6カ月、能動フック1年」の者からの回答。

・ 医療機関からの回答において、訓練等に関して他の事例と異なるような記述はない。

→ 訓練期間に関する要望が多い。現行の訓練期間(原則4週間、最大8週間)を見直す必要はないか。訓練期間はどのくらいが妥当か。

→ 装着訓練を行う医療機関等が全国各地に存在していないため、「研究用支給」を改めるにしても両上肢切断者に対する電動義手の支給と同じ枠組み(特別種目)とする必要があるのではないか。

○ 装着前訓練を行える機会がほしい。使っていなかった筋肉の筋力トレーニングが必要。(事例21)

・ 「装飾用義手7年、作業用義手8年」からの回答

・ 訓練については「通院、8週間、週1回、平均訓練時間3時間、主な訓練場所医療機関及び自宅」である。

→ 能動義手の訓練終了者を電動義手の支給対象者とすべきではないか。(再掲)

→ 高額な電動義手をより有効に活用してもらうため、「入院」して訓練を受けることを前提としてはどうか。

- 訓練期間の分割や短縮など個人に応じた対応をお願いしたい。(事例22)
- 申請してから結果がでるまでの期間が長い。(事例3、10、11、12、17)
- もっと制度を広めてほしい。正式な支給制度にしてほしい。(事例2、6、8、22、23、27)
- 将来的に継続して使用するので、メンテナンスもサポートしてほしい。(事例20)
 - 中長期的な使用状況のフォローアップの意味からも、定期点検等の仕組みを検討すべきではないか

義手別・装着年数別の状況

装着年数	装飾用のみ		能動のみ		装飾用+能動		装飾用+作業用		装着経験なし		合計	
	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率
不明			2	7.4%	1	3.7%					1	3.7%
経験なし									3	11.1%	3	11.1%
1年以下	1	3.7%	3	11.1%	8	29.6%					12	44.4%
1年超え	1	3.7%		0.0%	7	25.9%	1	3.7%			9	33.3%
合計	2	7.4%	5	18.5%	16	59.3%	1	3.7%	3	11.1%	27	100.0%

※ 「装飾用+能動」及び「装飾用+作業用」の装着年数については、能動又は作業用義手の装着年数で分類した

電動義手を重たいと回答した者の義手別・装着年数別の状況

装着年数	装飾用のみ		能動のみ		装飾用+能動		装飾用+作業用		装着経験なし		合計	
	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率
不明			1	9.1%							1	9.1%
1年以下			1	9.1%	6	54.5%					7	63.6%
1年超え	1	9.1%			1	9.1%	1	9.1%			3	27.3%
合計	1	9.1%	2	18.2%	7	63.6%	1	9.1%			11	100.0%

義手の装着年数が1年以下のグループと1年超えのグループを比較すると、1年以下のグループの方が「電動義手が重い」とする回答の割合が高い。

(1年以下のグループ)

$$7人 \div 12人 \times 100 = \underline{58.3\%}$$

(1年超えのグループ)

$$3人 \div 12人 \times 100 = \underline{33.3\%}$$